

教師教育者のためのセルフスタディー (5)

【指定討論①】

大学院人間社会科学研究所・教育学部

丸山 恭司



0. 自己紹介

教育哲学・専門職倫理教育、教師教育者養成の「広島大学 教職課程担当教員養成プログラム」、教師教育者が用いる授業方法と研修方法としての「ケースメソッド」と「授業研究」、「セルフスタディ未経験者がコメントする」役回り

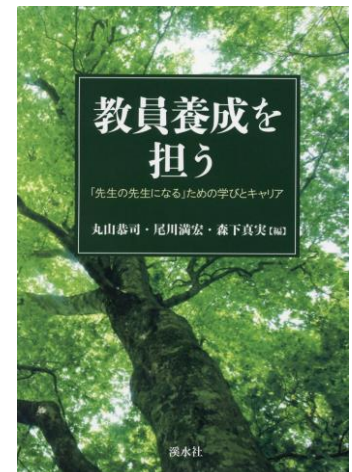
1. 本研究の意義、新規性

2. 背景となる問題：教育関係職の社会的地位の低さ

3. 教師と教師教育の地位向上の必要

4. 教師教育者の専門職化の方法

5. 「セルフスタディ」をめぐる懸念と意義



1.本研究の意義、新規性

- 教師教育者という存在に光を当て、その**研修方法の高度化**を目指す
- 学校教育全般の質向上を生む一つのルートの開発
 - 教師教育者の養成研修方法の改善
(大学教育全般と教師教育の双方の改善)
 - 教師の高度化
 - 児童生徒の学習推進

2.背景となる問題：教育関係職の社会的地位の低さ

- 教員や教師教育者の社会的地位に関する欧米と東アジアの相違
 - 教師の社会的地位
 - 教育学部、教育学部教員、教育学部生、教育学研究者の大学内での地位

3.教師と教師教育の地位向上の必要

- 教員の社会における地位の低さ;教育学部や教師教育者の大学における地位の低さ
 - 給与が安い。尊敬されない。大変な仕事
 - 人材が集まらない。社会から見下される
- 社会的地位の向上
 - 給与の向上、良き人材の参画、社会から尊敬
- どうやって？

4. 教師教育者の専門職化の方法

- 専門職要件: ①職能集団の形成、②組織的養成、③資格認定の厳格化、④倫理綱領の制定と共有、⑤自律性(と協働性)
- 研究と協働: 研究の合理性と他者視点の相対化による客観的な改善努力; 研究業績を求める大学、自己改善能力として研究能力
- 研修(研究と修養)方法としての action research, self study

5. 「セルフスタディ」をめぐる懸念と意義

- 語学教育界や補習塾業界では「自習」、べてるの家の当事者研究
- 「セルフスタディ」で「教師教育者の研修方法」という意味を持たせるにはジャーゴンの、ローカル志向的用法になっている
- セルフスタディは専門職一般の研修方法として確立されることが望ましい